大正15年（1925年）の吉野川（別宮川）河口付近

Ⓐ大岡浦の集落
道の両側に移動して来た家が並んでいるようすが、よくわかる。

Ⓑ旧堤防があったところ
今でも干潮の晴れた時には川面から石垣の一部を見ることができるという。

Ⓒ大岡浦の人々が移転前に住んでいたあたり

Ⓓ当時の農地

Ⓔ沖洲海岸の松原
村の東のはずれからよく見えたという松原。現在でも一部が残っている。

現在の吉野川河口（略地図）

●印が旧大岡浦（現 住吉6丁目）

沖洲海岸の先に工業団地マリンピア沖洲が建設され、川の形状もかなり変わっている。干潟も「若い頃に比べて1/3くらいになった。」（今津さん）と言う。

マリンピア沖洲は一部が建設中止になったとはいえ、第二期工事計画が進行中である。さらに沖洲海岸を埋め立てその上を四国横断自動車道を通し、吉野川河口に道路橋をかける計画と河口1.7km地点に東環状道を今後も、このあたりの地形変化が予想されると共に、干潟や海岸の生態系や川・海での漁業などへの影響も大きいと言われている。

通す大橋をかける計画が同時に進行中である。

参加者の感想など…

おどろいたこと。昔は今ずさんの家から沖洲海岸が見えたって聞いたー。今のていぼうが2つめのていぼうだということ。昔はよくこうずいがあったこと。

今津さんのおじいちゃんの家は昔、現在では川の中になっているところにあったという話がおもしろかった。昔のていぼうを川の上から見てみたいと思った。今日は、とってもたのしかった。

干潟の観察会には何度か参加していますが、どのすぐ近くにずっと川や田んぼとかかわって来た人の暮らしがあったのだという事に気づかせていただいて、よかったと思います。

住吉に最近まで16年あまり住んでいました。マンションや商店が建ち並び、大勢の人の生活を抱えている街も、30年前には干潟だったんだなぁ…この辺は…と、よく耳にした。

過去へ、
包丁を持って台所に立つ自分を、干潟でサギやカモに まぎれて立っている自分にワープさせる。

未来へ、
……、どんなところで立つ？どんなところに立ちたい？ 昔から今、そしてこれから。干潟にワープさせながら、ここの、これからを考えずにいられない、そんな ターンウォッチングでした。

参加者全員 おいしいちゃんを囲んで… ハイ・チーズ!!

INFORMATION

とくしま自然観察の会とは

誰でも気軽に参加してもらえる観察会を通じて、身近な自然を楽しみながら、仲間の自然を見なおしたり、発見したりしようと、1994年、4月に発足しました。吉野川河口や城山を主なフィールドとして自然観察会を行なっています。

- 「しおまねきブック」のお問い合わせは とくしま自然観察の会まで お願いします。
- この印刷物についてのお問い合わせは 下記まで
  TEL、FAX、共 [redacted]（長澤陽子）

吉野川河口干潟を知るには…

これ！

何かみてるの？シオマネキ…

発行：とくしま自然観察の会
価値：500円
A5版、カラー印刷